



柝尾 秀典 整形外科部長

三重県出身 神戸大学卒業
昭和大学整形外科学講座入局 昭和大学病院勤務
昭和大学江東豊洲病院勤務
2021年4月 城西病院入職
整形外科専門医

神戸大学医学部の股関節科に在籍し、人工股関節などの研究に携わってきました。大学病院でも人工股関節の手術などに取り組んできました。

「昨年10月に城西病院の常勤医となり、これまで人工関節の手術を6件行いました。骨折一般の手術も増えています。近くに大きな病院がないと、患者さんもなかなか人工股関節のような手術に踏み切ることができません。患者さんにとって、近くの病院でこうした手術を受けることができるのは、とても助かっていると思っています」と話す柝尾医師。

整形外科を選んだのは、「すぐに結果が分かる分野」で、大学にいた時には6年間で約300例の人工股関節手術を行ったといいます。

人工股関節置換術が日本に導入されたのは1970年代といいます。手術方法や人工股関節に使われる材質なども急速に進化し、20年ほど前から完成された手術になったといわれます。当初行われていた手術に比べ、手術時間が短くなり、手術創も小さくなって、退院するまでの期間も短くなりました。国内での手術件数も20年前は約1万件だったものが、現在では約6倍の6万件に及んでいるといいます。

「人工股関節の手術は、長期的に使われた信頼できる機械でないといけない。患者が痛くてどうしようもないという場合に行いますが、患者は近くに大きな病院がないと受けることができませんでした」と柝尾医師。そして「外傷で重篤な症例や専門性が高い症例は石橋病院や獨協医大付属病院、自治医科大学などに患者さんを送らせてもらっています。今後とも、よろしくお願いします」と話します。

城西病院に来たのは、2012年から非常勤で診察し、大学時代の同級生がいたからといいます。東京から新幹線で通勤し、「ラッシュがないのがいいですね」。そして、週3回、朝5キロほど病院周辺の田んぼの周りをジョギングしているといいます。

趣味はフィッシング。「小さな魚を釣るのも面白いですけど、徐々に大物を狙うようになってきました。船で海に出て、ルアーでカジキやヒラマサなどの大物を釣っています」と話します。